



2024年6月1日発行
(毎月1日・1回発行)
1988年1月27日第3種郵便物認可
定価50円
発行/
公益財団法人横浜YMCA
広報センター
〒231-8458
横浜市中区常盤町1-7
Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 6



▲脳いきいき体操のクラスで定期的に体を動かし健康維持を図っている
(横浜中央YMCA)

2021年から2024年3月まで横浜YMCAは、創立150周年を迎える2034年に、どのような社会を目指し、持続可能な組織となるための長期計画「VISION2034」を策定し取り組みを進めてきました。2024年4月から第2期中期3カ年計画では、これまでの計画と「VISION2034」の見直しを行い、第1期における24の重点項目を第2期では16にポイントを絞り、目標達成のための取り組みを進めています。一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに育まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために「子育てと子育て」を掲げています。生活のクオリティの領域では、健康

「人生100年時代」に生涯通じた健康とつながりづくりをサポート

創立150周年(2034年)に向けて横浜YMCAでは、将来計画「VISION2034」を策定し歩みを進めています。2034年に、どのような社会を目指し、持続可能な地域や社会となるための長期計画として取り組んでいます。4つの領域「子育てと子育て」「生活のクオリティの向上」「ユースエンパワメント」「社会に貢献」を掲げています。今号では「生活のクオリティの向上」について考えていきます。

2021年から2024年3月まで横浜YMCAは、創立150周年を迎える2034年に、どのような社会を目指し、持続可能な組織となるための長期計画「VISION2034」を策定し取り組みを進めてきました。2024年4月から第2期中期3カ年計画では、これまでの計画と「VISION2034」の見直しを行い、第1期における24の重点項目を第2期では16にポイントを絞り、目標達成のための取り組みを進めています。一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに育まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために「子育てと子育て」を掲げています。生活のクオリティの領域では、健康づくりの機会と環境の充実の重点項目として中高年層にスポーツや学びの機会を提供し、生活習慣の改善や健康維持を促進することや中高年層が持つ知識や経験を活かした社会参加活動の機会提供を促進することとしています。また、一人ひとりのライフステージを地域で支え合うために地域の諸団体と連携し、高齢化で生じる課題への取り組みを促進すること、高齢者の心身の健康づくりと社会的孤立の解消を目的に交流の場、居場所を提供していくこととしています。

今、私たちは急激な人口減少と、4人に1人以上が高齢者という超高齢社会を迎え、「人生100年時代」が近づいています。一方、人と人とのつながりは希薄になり、地域で支え合う力は弱くなってきています。認知症患者の増加、高齢者単身世帯の増加、高齢者が高齢者を介する老老介護の増加などの課題もあります。一人ひとりが生活の質を向上させ「人生100年時代」を充実させて元気に活動できるように、生涯を通じた「健康づくり」「つながりづくり」のサポートや、セカンドキャリアを築くためのプログラム、知的好奇心を満たし、人生を豊かに過ごすためのプログラムも提供していきます。人とのつながりを持てる居場所づくりや人の役に立ちたいという気持ちや知識、経験を生かして活躍できる機会を作り、地域の支え合う力を回復しYMCAの目指す「ポジティブネットのある社会」を実現していきます。一人ひとりのライフステージに寄り添うYMCAとして、事業や地域活動の経験を生かし、多様なニーズに合わせて新たなサポートの在り方を創出していきます。

VISION2034 一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに育まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために



自然の中でスポーツや散策 大人の休日アウトドアキャンプ

健康教育事業では、昨秋に1泊2日で自然の中で余暇を楽しみ、生涯を通していきいきと過ごすきっかけづくりとして「大人の休日アウトドアキャンプ」を三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて行いました。海でヨットやカヤック、SUP、スノーケリングを楽しんだほか、夜にはバーベキューを行い仲間と語り合いました。翌日は海沿いを歩きソレイユの丘の丘に向い、観覧車やシバスライダー、会話を楽しむなど仲間とのつながりの機会になりました。



健康維持目指して 介護予防運動に取り組む

高齢者事業と健康教育事業が協働して大和ライフサポートセンターや横浜市鶴見中央地域ケアプラザ(指定管理者)・横浜市生麦地域ケアプラザ(指定管理者)などにおいて「介護予防運動」を行っています。椅子に座って行う体操は無理なく手軽に行うことができ、筋力や身体機能を向上させ、健康の維持・促進に効果的であり、また適度な運動は脳への刺激にもなり認知症予防につながるといわれています。



地域の皆で環境守る 鶴見川ゴミ拾いウォーク

地域の人たちとともに川の周辺のゴミを拾うことで海の環境を守っていくこと、SDGs14「海の豊かさを守ろう」につながる取り組みとして、横浜市鶴見中央地域ケアプラザ(指定管理者)では、地域のひとと「鶴見川ゴミ拾いウォーク」を行っています。ボランティアや横浜つるみワイズメンズクラブ、鶴見地域の大学生や中学生、小学生など25人の参加があり、たばこの吸い殻やプラスチックごみ、缶、ビン、ペットボトルなどのゴミが集められました。



認知症の応援者増やそう 大和YMCAで認知症理解講座

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動する「応援者」を養成する「認知症サポーター養成講座」が大和YMCAライフサポートセンターをはじめ高齢者事業によって行われています。2023年度は、認知症理解講座に延べ320人の参加があり、地域の高齢者を見守る活動に活かされています。住み慣れた地域で高齢者が安心して過ごせるよう高齢者に仕える人材を育てています。



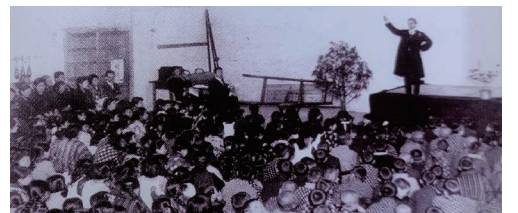
ホドス

少し前、中学校時代の同級生と旅行した。彼の桜の木製の杖を褒めると、私に譲る約束をした。後日、いいことがあるよと手紙が添えられ杖が届き、今も重宝している▼「美しい歌」「信仰こそ旅路を導く杖」を歌いながらこの杖で歩くのは気分爽快だ。しかし80歳代も半ばの最近では、あちこち痛む体を抱え重い気分を外出は重荷に感じる。友人に愚痴を言うところ、おめでとう、確実な老いに入っているね」と電話口から元気な声が返ってきた▼「杖を片手に帰る電車のこと。具合が悪く辛そうな夫と、夫を励ます老婦人の二人を見て、シルバースーツに座る私は、思わず歳を忘れて席を立ち、譲ってしまった。すると少し離れた席に座る若い女性が、さっそうと私のところに来て「杖姿が気になりました」と自分の隣に招いてくれた。ご好意がありがたかった。下車の時には「ありがとうございます」と「うれしさを伝えた。そしてあの讃美歌の「旅路を導く杖」を口ずさみながら降りた▼その数日後は不調の体で礼拝に出席した。長男の高校一年の息子(私の孫)と、その友人が洗礼を受けた。赤ちゃんの時から知る二人のため私のうれしさの高揚感に相当だった▼礼拝に一緒に参列した長女の小学五年の息子が帰宅して「僕もああする」と娘に言ったそう。あの杖を刀や銃代わりに遊び、叱った孫の言葉や、あの電車の若い女性の振る舞いに私の気持ちは明るくなった。(準)

YMCA NETWORK NEWS

Topics 140years of HISTORY はじめての会議や演説会(1886年) vol.3

1886年3月26日発行の「基督教新聞」によると「此度横浜基督教青年会を設け去月第二土曜日夜之に就き始めて会議を開き其規則を討議決定し其役員を選挙し即ち会長には熊野雄七氏、幹事に片山郁氏、書記には中田辨吉氏、会計には北島五郎右衛門氏、商議員には藤生金六、八木常太郎、和田肇の三氏当選せられたり。又本月第一土曜日の夜は始めて演説会を催し半田(開会の主意を述べ且つ青年諸君に臨む)中田(宗教の効果)八木(奮起せよ奮奮せよ青年諸君)藤生(青年諸君に告ぐ)伊橋(基督教神学の必要を論ず)の四氏交々演壇に上りて演説せられ其外に河村武彦、小幡傳明の二氏は青年会の設立を祝する文を朗読せられたり(編者考。「去月第二土曜の夜」とは明治十九年二月十三日に当たる。)」という記事があります。このことは横浜YMCAが1884年10月に出立して約1年、有余のささやかな活動をつづけた後青年会の名実ともに生誕をする準備・胎動をつづけていたといえることとあります。翌20年になるとフェリス和英女学校教師の高根虎松(後の法学博士高根義人)の入会援助によって会はなお発展し、発足当初から盛んに行っていた外へ向かつての演説会(講演会)には3000人の聴衆を集めたといわれています。(参考「横浜YMCA百年史」)



▲演説会は発足当初から続けられ多くの市民が集まった(1910年代)

ポジティブネットをひろげよう
~今月のよくなる一歩~

みず たいせつ し
水の大切さを知ろう。
(Responsibility 責任感)

横浜 うたごえ広場

歌を歌い元気に

声を出して歌を歌うことは、腹式発声のため有酸素運動になり、血行促進や血糖値の低下、認知機能低下の進行を遅らせる効果なども期待できると一般的に言われ、健康に良いとされている。昨年9月のYMCAフェスタでは参加者とともに歌を歌う「うたごえ広場」体験を行い、懐かしい童謡に心地良いひと時となった。



ギターやピアノの伴奏で歌を歌う「うたごえ広場」は、横浜北YMCA、湘南とつがYMCAをはじめ、横浜市東本郷地域ケアプラザ(指定管理者)において行っている。6月13日(木)午後2時から3時15分には、新たに横浜市鶴見中央地域ケアプラザ(指定管理者)にて開催する。(要事前予約)Tel.045-5150817800/定員25人。横浜YMCAでは仲間と交流し、歌を歌う「うたごえ広場」にて、健康づくりの機会と環境の充実を目指している。

子どもたちの豊かな成長を支え未来を育むために 2024 SUMMER CAMP

富士山YMCAと三浦YMCA2つのグローバル・エコ・ヴィレッジにて



▲自然と触れ合い仲間とともに過ごすキャンプは一生の思い出に ▲スノーケリングで魚の観察も

今夏に、横浜YMCAのキャンプは100年を迎える。1923年に、関東大震災の支援活動に使ったテントを再利用して1924年に被災した子どもたちを励ますキャンプを営み、いのちを輝かすことを願っている。キャンプではグループワークや体験学習を用いながら価値教育、安全教育、環境教育、グローバル教育を取り入れ子どもたちの成長を願うキャンプを実施する。YMCAのキャンプは当初から、子どもたちの豊かな心を育み、いのちを輝かすことを願っている。キャンプではグループワークや体験学習を用いながら価値教育、安全教育、環境教育、グローバル教育を取り入れ子どもたちの成長を促すよう取り組んでいく。8月には富士山・三浦YMCA2つのグローバル・エコ・ヴィレッジにて夏季のキャンプを行う。

富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは、「はじめてのキャンプ1」(年少から年長/草原遊び・水遊び・キャンプファイヤー)、「はじめてのキャンプ2」(年長から小学2年生)のほか、小学1年生から6年生を対象とした富士山の自然を楽しむ「ネイチャー」(川遊び・ニジマスカみ取り)、「アウトドア」(テント泊・木登り体験)、「アドベンチャー」(ハイキング・アウトドアクッキング)の3種類のキャンプを行う。

同月に、三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでは「ファンタジー」(年少から年長/シーカヤック・磯遊びなど)、「シーサイド」(小学1年生から6年生/磯遊び・シーカヤック・スノーケリングなど)、「シーマウン」(小学3年生から中学3年生/磯の観察・シー

ウォーターセーフティーキャンペーン開始 6月16日(日)に着衣泳体験



▲着衣泳体験でいのちを守る

横浜YMCAでは、全国のYMCAとともに6月1日から「ウォーターセーフティーキャンペーン」に取り組んでいく。

この取り組みは、水難事故から子どもたちのいのちを守り、子どもたちの水辺での豊かな経験が「いのち」を育むことを推進している。

警察庁の発表によると昨年(2023年)で7月から8月(夏期)の水難事故は453件、水難者数は568人、うち死者・行方不明者は236人と報告されている。

そこで今年度は「自分自身のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」をテーマに、6月16日(日)に、

ウォーターセーフティーでは、日常から離れ、大自然の中で仲間と協力し、協調性の大切さを学び、交流を深めるとともに、自立と自律を体験し、子どもたちの心身の成長をサポートしていく。

100年続く横浜YMCAのキャンプを通して子どもたちの豊かな成長を支え、未来を育むための体験と学びにつなげていく。

各YMCAでは、キャンプ

ウォーターセーフティーデーとして「25mチャレンジ」(着衣泳講習会)「 CPR講習会」の体験を全国のYMCAで一斉に取り組む。

25mチャレンジは溺れた際に自分のいのちを自分で守れるよう、支持物を使うことや自力で泳ぐ技術を身に付ける。着衣泳体験は今年から大人でも、子どもでも、また親子でも参加することができ、服を着たまま水の中に落ちた際の行動や溺れている人を見つけた際の行動を学ぶ。

神奈川県教育委員会の協力により、県内のすべての公立小学校にポスターを配布する。

のほか、夏の短期講習会(水泳・体操など)も行う。詳細についてはホームページをご参照ください。

YMCAあつぎ保育園ホサナでは、地域に住む幅広い年齢層の子どもたちに、自然に親しんだり異年齢交流を楽しんだりできる機会を提供するというねらいのもと、地域活動「わくわく自然あそび」を実施しています。最初の活動では「何をして遊べばいいの?」と戸惑う子どももいましたが、保育者が遊ぶきっかけを与えたり、虫メガネひとつあることで遊びがぐっと広がります。自然の中にはたくさんの遊びがあり、「今日とはかきを見つけた」と、期待を持って参加してくれる子どももいます。

豊かな自然の中から、遊びを見

♪子育てランド♪ 遊びを生み出そう

つけ興味のあることを繰り返し試したり、挑戦したりしながら、実際の体験を通して学びとしています。探求心や、最後までやり遂げる力は、目には見えませんが、将来の子どもたちの生きる力になると願い取り組んでいます。

今後も、生き物との出会い、驚き、季節の変化、大人でもはっとするような自然の美しさを、子どもたちが五感いっぱい味わえるような機会を提供していきたいと思えます。

(YMCAあつぎ保育園ホサナ 主任 鶴見菜穂)

横浜 美しい港町横浜を つくる会・一斉清掃

横浜YMCAでは、地域活動の一環として、YMCA周辺の清掃に定期的に取り組んでいる。
横浜を世界一きれいな港町にしよう、世界に誇れる国際都市横浜の形成に寄与しようという取り組みNP法人美しい港町横浜をつくる会会長加藤和之氏・理事 佐竹博横浜YMCA総主事)では、4月16日に第26回一斉清掃が行われ、各地域の企業とともに取り組んだ。横浜YMCAから21人(写真右前列から後列が参加し、尾上町3丁目、真砂町3丁目周辺の空き缶・瓶、タバコの吸い殻などのゴミを拾い清掃した。



ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン 元全日本バレーボール代表 益子直美氏特別講演会

自分の感情に向き合いより良い関わりを 各YMCAで楽しくスポーツ体験も



横浜YMCA 2024 ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン
「自分自身の感情と上手に付き合うためには」
元全日本バレーボール代表選手 益子直美氏 特別講演会

子どもたちの健やかな心と身体を育む成長の支援と家族で健康について考えようと横浜YMCAでは、4月21日から5月末まで「ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」を行った。
キャンペーン初日の4月21日には、湘南とつかYMCA

にて子どもたち一人ひとりの個性や魅力を引き出すために指導者や保護者の役割、指導・教育方法、子育ての手法をもとに考える機会として特別講演会「自分自身の感情と上手に付き合うためには」を開催した。講師には「監督が怒ってはいけないバレーボール大会」を開催している益子直美氏(元日本バレーボール全日本代表選手・公益財団法人日本スポーツ協会副会長、日本スポーツ少年団本部長)を招いて、自分の感情に向き合い、感情と上手に付き合う考え方や習慣を身につけることで子育てや日ごろのストレスなどによる感情に振り回

されない生活につなげていくことなどが話された。
講演会には、保護者や子どもと関わる保育士、学童保育指導員、教員、地域の人など100人が参加した。自分の感情の動きを日常に照らし合わせた質問もあり、子どもの能力を引き出せるよう大人の関わり方を考える機会となった。

た。各YMCAでは水泳や体操、サッカーや親子で一緒にできるプログラム、種目別のワンポイントレッスンのほか、ファミリーバスケットボール、キッズダンスなども行われた。
横浜YMCAでは、今後も楽しく運動に取り組む機会を提示し、子どもや家族の健康づくりの機会につなげていく。

て9日から15日に大塚英彦(厚木YMCA)・石川尚樹(鶴見中央地域ケアプラザ)、第3次派遣として14日から21日に茂澤いずほ(横須賀市民生活サポートセンター)、駒井雄一(東戸塚小学校放課後キッズクラブ)の職員4人が輪島市町野町東陽中学校の避難所にて避難所運営のサポートを行った。

多文化共生を 考える講座

横浜YMCAでは「多文化共生を考える講座」を6月から4回シリーズで行う。神奈川県には、現在26万人以上の外国籍住民が生活し、その数は増加しているという。多様なルーツや文化を持つ人びとと互いに認め合い、ともに生きるために必要なことを考える。

第1回目は、6月1日(土)午後1時30分から3時30分に横浜中央YMCAにて「ともに生きる地域を目指そう」をテーマに裴安(ペイアン)氏(NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター理事)を講師に迎え、ともに生きる地域づくりについて学ぶ。詳細は4面。

た。事故防止、そのための取り組み、事故を起こすこととはどれだけ重大なことか、そのような点が強く印象に残り、「星野さんといえば『安全のこと』だった。」
20年ほど前に、たまたま横浜キリスト教書店で「ペンペン草」と題のついたこの絵はがきを見つけた。それをきっかけに、星野さんの数々の詩画から多くを学んできた。この詩の後半は「風に揺れるペンペン草の実を見ていたらそんな日が本当に来るような気がした」と続く。
身近なことに着想を得て伝える感謝、他者への想いに学ぶこと、大きな願いを神様にゆだね、その希望を自然の小さな営みに見出すこと。美しい詩画から、物事の捉え方、考え方、生き方をこれからも見做ってほしい。

能登半島地震の発生から1日で5カ月となった。石川県では5月8日時点で4千130人が避難生活を送っている。支援金の呼び掛けや支援活動を展開している。
支援活動は①金沢市にあるいしかわ総合スポーツセンター内に開設された1・5次避難所における運営アドバイザー②輪島市避難所運営サポート③富山YMCA被災者支援活動を中心に取り組んできた。2月にはいしかわ総合スポーツセンターにある1・5次避難所に2人の職員を5日間派遣し、各支援団体からの意見調整や所管する県の各課への確認などを行った。5月には、第2次派遣として



▲楽しく体を動かした「親子でHIPHOP」(横浜北YMCA)



▲朝食配布の準備をする横浜YMCAのスタッフ

FLASH NEWS

2021年2月の軍事クーデター以来、市民の生活やいのちが脅かされる状況が続いているミャンマーのための特別祈禱会(主催 横浜YMCA国際事業委員会)が5月11日にオンラインで開催され、21人が参加した。ミャンマー出身の留学生によるメッセージに続き、ミャンマーYMCA同盟総主事、ロイコーYMCA会長によるメッセージのほか、現地で支援活動を行う医師からミャンマー支援のためにできることについての提言があり、平和を願って祈りを合わせる機会となった。



6月20日の「世界難民の日」に合わせて、ワークショップ「難民の? (ハテナ)を話す会」(主催 横浜YMCA国際事業委員会)を6月8日に開催する。木下理仁氏(かながわ開発教育センター事務局長・横浜YMCA国際事業委員)を講師に招き、難民問題を理解するための参加型ワークショップを行う。



ワイズ 留学生ガンバレ! コーナー 横浜ワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブはYMCAとともに公正で平和な世界の実現を目指す社会奉仕団体で、横浜YMCAが行う平和、人権、環境保全の諸活動に参画していますが、横浜ワイズメンズクラブ独自の活動として横浜YMCA専門学校日本語学科留学生の支援をしています。

具体的には、日本語スピーチコンテストを専門学校と共催することやチューターとしての留学生個人の支援などです。4月に新年度を迎え、13か国、75名の留学生が入学され、5月2日には歓迎会に参加しました。目を輝かせている一人ひとりの、良い学びの時であるようにと祈るこの頃です。(横浜ワイズメンズクラブ 会長 古田和彦)

ひとかき ぺんぺん草

総主事 佐竹 博

星野さんにとつての願いは、不自由な生活の中であつたであろうが、それらの中から祈り求めて一つ選んだものが「ぺんぺん草」に表現された、お母様の肩をたたきたいという願いだつた。

「神様がたつた一度だけこの腕を動かしてくださいとしたら母の肩をたたかせてもらおう」この詩画を描いた星野富弘さんが4月に神様のもとへ帰られた。

体育教師としてクラブ活動中、落下により頸椎を損傷し手足が不自由となり、以降、筆を口でくわえ、詩画を描き始められた。けがの後に受洗した星野さんは、積極的に制作活動をされ、各所で展覧会なども開催された。横浜YMCAも100周年記念事業の一環で40年前となる、1984年2月に横浜高島屋で星野富弘詩画展を開催している。

私はYMCA健康教育事業に従事していた約30年前に、研修で星野さんのことを知った。

星野さんにとつての願いは、不自由な生活の中であつたであろうが、それらの中から祈り求めて一つ選んだものが「ぺんぺん草」に表現された、お母様の肩をたたきたいという願いだつた。

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワークサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園オサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 辻山YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー
 日時 6月21日(金)午前10時～正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ Alamaku! The word that has the same meaning with Japanese word
 ゲスト Nurul huda binti Shafiee(マレーシア)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会
 日時 6月13日(木)午前10時30分～11時30分
 会場 湘南とつかYMCA 4階
 テーマ イエス・キリストの教えた生き方～The way of JESUS～
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

イベント

■多文化共生を考える講座
 ・第1回「ともに生きる地域を目指す」
 日時 6月1日(土)午後1時30分～3時30分
 会場 横浜中央YMCA
 講師 裴安氏(NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター理事長)
 ・第2回「フィールドワーク①」
 日時 7月6日(土)午後1時30分～3時30分
 会場 ABC ジャパン(横浜市鶴見区)
 講師 藤波 海氏(ABC ジャパン理事)
 参加費 1,000円(単回)※9月28日(土)・10月26日(土)合わせて4回お申込みの場合は3,000円。
 申込み 事前にQRコードにてお申込みください。
 主催 横浜YMCA
 共催 NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター
 問合せ 国際・地域事業 Tel 045-662-3721

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会
 日時 6月23日(日)午後1時30分～2時30分・26日(水)午前10時～11時
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ

対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676
 ■プレママDay
 日時 6月25日(火) 午前10時～11時分
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

採用説明会

■2025年卒 総合職採用説明会
 日時 6月22日(土)午前10時～11時30分
 会場 横浜中央YMCA
 内容 採用説明会
 申込み マイナビ2025にてお申込みください。
 問合せ 横浜YMCA本部事務局 Tel 045-662-3721

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校
 日時 6月8日(土)、22日(土)午前10時～/午後2時～、18日(火)午後6時～
 内容 体験授業・AO入試・高等教育無償化説明会

申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441
 ■横浜YMCAスポーツ専門学校
 日時 【学校入試説明会】6月8日(土)、15日(土)・22日(土)・29日(土)午前10時30分～/午後2時～
 【説明会&エクササイズ体験】6月30日(日)午前10時～【説明会&Jリーグクラブコーチに聞く!サッカーのお仕事】午後2時～
 申込み QRコードからお申込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990

横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科

日時 6月8日、29日(土)午前10時～正午
 内容 オープンキャンパス・学校説明会
 申込み Tel 045-661-0080
 gakuin-ji@yokohamaymca.org
 ご都合が合わない場合はご相談ください。
 ○専門学校では個別の相談や見学も受け付けています。

ボランティア情報

横浜YMCAでは、「ユースリーダー」(指導者)を募集しています。皆さんの個性を活かした活動をしてみませんか。詳細は各YMCAへ。

つながりと交流の機会「みどりクラブ」

ウクライナの人びとの地域の居場所「みどりクラブ」は、5月6日に十日市場地域ケアプラザにて行われました。ウクライナのイースター(キリスト復活祭)に近い開催日となったため、参加者が持参したイースターを祝う菓子を食べながら皆で祝いました。昨年好評だったたこ焼きづくりのほか、横浜市東本郷地域ケアプラザ(横浜YMCA指定管理者)の指導者による健康体操も行われ、心身ともにリフレッシュする機会となりました。ナチュラルコープ・ヨコハマからはたこ焼きの材料のほか、新鮮な野菜の提供がありました。



ウクライナ支援活動2023報告会 オンラインで6月12日(水)開催

横浜YMCAでは、2023年度もウクライナ支援募金を呼び掛け、1,438,301円の募金が寄せられました。心から感謝いたします。横浜YMCAでは、6月12日(水)午後6時30分から8時までオンラインにて「ウクライナ支援募金報告会」を開催します。2023年度の支援活動を写真や動画を用いて報告するとともに、横浜YMCAで働くウクライナのユースからの報告が予定されています。お申込みはQRコードから11日までお申込みください。お申し込みのあった方に当日の朝までにURLをお送りいたします。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えます。140年のあゆみを写真で紹介いたします。



▲関東大震災でがれき野原となった横浜市内を花で飾る「美化運動」に取り組んだ(1924年～1925年)



腰痛のため運動を減らしたと思っていた時に、息子の野球チームの保護者からYMCAを紹介されました。1984年4月に申し込みました。が、当時は参加者が多く、2カ月くらい待たされたことを覚えています。水泳経験がなく、バタ足からはじめて、25mを泳げた時には感動しました。そのような自分の経験に重ね、プールボランティアの際に泳いでいる子どもたちを見て「がんばれ!」と心の中で応援をしています。YMCAの出会いで、年上の方たちとの関わりからは「知恵」をいただき、子どもたちからは「きゅちゃん」と呼ばれて「元氣」をもらっています。プールボランティアでは、クラス中の子どもたちが行くトイレのケアだけでなく、時には子どもたちの思いを聞くことがあります。「ランドセルの色」「誕生日が楽しみなこと」「友だちのこと」「家のこと」などの話を聞き、驚くことも、ほっとすることもあります。

以前に、ベビースイミングの着替えボランティアをしていた時に出会ったお子さんとは今でもつながりがあります。そのご家族が数年間、中国に行かれていた時も交流が続き、

My Y Story

173 川崎YMCAと40年、今も続く プールボランティアの出会い

川崎YMCA水泳クラス会員 木津川 俊子

帰国してから、学校の入学、卒業などの報告に会いに来てくださいました。最近、大学に入学され、車の運転免許をとったその日に、運転して会いに来てくれました。YMCAでみつかった出会いが、今もつながっていることをうれしく感じています。

今の若い人たちの子育ては自分が子育てをしていいたと時から変わったと感じることがよくあります。ロケットカールームでの着替えを見ている、自分の時には急いで着替えるようにしていましたが、今の保護者は子ども自身が服をたたもうとしていたり、ペリスを大切に寄り添っている保護者が多くなったと感じ、ほほえましく思っています。

YMCAは、自分のペースに合わせて続けやすいと思っています。時間的にいつでも利用できるように決めた時間にYMCAに行くことが、その時にいる仲間との交わりがあり、それが人と関わることで好きな私にとって楽しみとなっています。川崎YMCAとともに40年以上の月日を重ねました。いつまでも居心地の良いYMCAであってほしいと願っています。



▲スイミングクラスの皆さんと(前列中央川崎YMCAのプールにて/2024年5月)